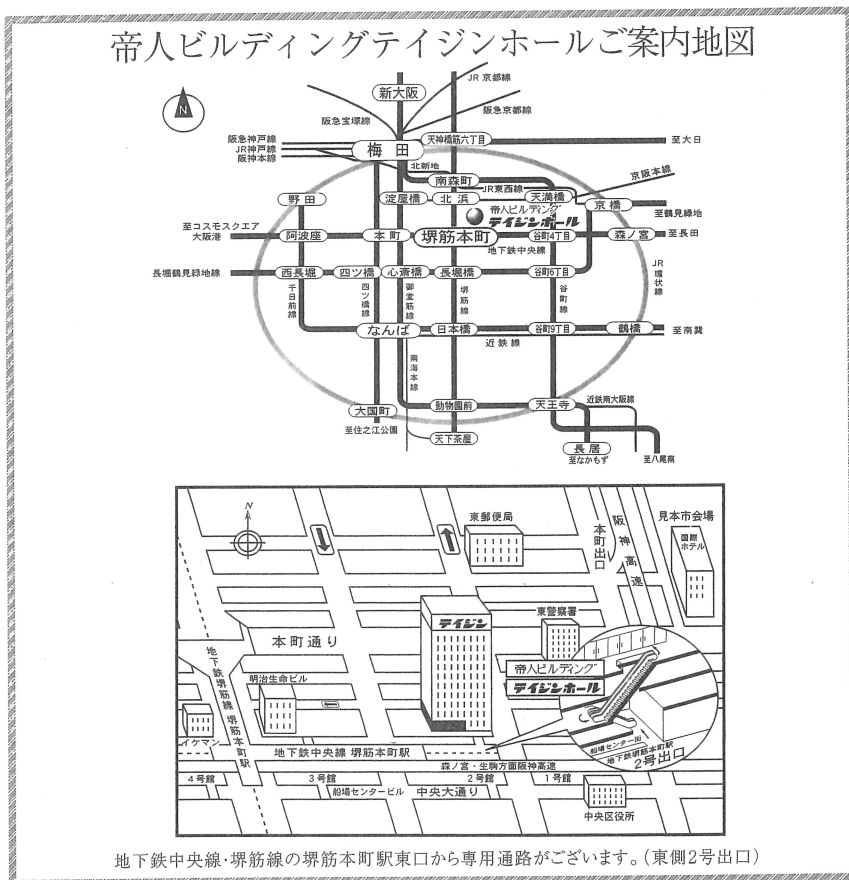


第29回 近畿川崎病研究会

日 時：平成17年3月5日(土)
13:00~18:50

会 場：テイジンホール

大阪府中央区南本町1丁目6番7号
TEL 06-6268-3131~3132



共 催 近畿川崎病研究会
帝人ファーマ株式会社

— 近畿川崎病研究会 —

第29回近畿川崎病研究会会長

濱岡 建城

運営委員長

横山 達郎

運営委員

石田 明人	上村 茂	越後 茂之	荻野廣太郎
奥野 昌彦	尾内善四郎	片山 博視	北村惣一郎
清沢 伸幸	小垣 滋豊	米田 正始	坂崎 尚徳
桜井 隆	佐野 哲也	篠原 徹	清水 達雄
杉本 久和	鈴木 淳子	瀬戸 嗣郎	津田 悦子
鄭 輝男	寺口 正之	土井 拓	富田 安彦
中川 雅生	中嶋 徹	西岡 研哉	服部 益治
馬場 國藏	濱岡 建城	福田 和由	藤原 久義
古庄 卷史	松田 暉	松村 正彦	三谷 義英
村上 洋介	横山 達郎	横山 直樹	吉林 宗夫

顧問

川崎 富作	川島 康生	田村 時緒	濱島 義博
森 忠三			

事務局

〒541-0045 大阪府中央区道修町2-2-6 後藤ビル6階
(株)協和企画 大阪支社内
TEL 06-6231-6770

— 参加者へのお知らせとお願い —

1. 参加者へのお願い

- (1) 研究会開始時間は午後1時です。
- (2) 研究会参加費は1,000円です。
なお、本会に未加入の方は入会のほどお願いいたします(年会費は3,000円です)。
- (3) 本研究会は、日本小児科学会認定医研修単位として5単位となっております。

2. 演題発表者へのお願い

- (1) 本研究会ではディスカッションを十分に行いたいと思います。
口演時間は発表6分(討論4分)でお願いいたします。
- (2) PCプレゼンテーションのみとなりますのでご注意ください。
- (3) プレゼンテーション用のデータは以下の要領で事前に事務局へ郵送してください。
[メディア] USBフラッシュメモリあるいはCD-R(Win/Macハイブリッド)
※必ず出力紙を同封してください。
[提出期限] 平成17年2月25日(金)必着
[その他] OS: Win98以降・Mac9.2以降
ソフト: PowerPoint
ファイル名: プログラムNo.と演者のお名前(記号や半角カナは含めない)
※スライドに用いるフォントは一般的なものを使用してください。文字化けする可能性があります。
※動画を用いる場合は、正常に動作しない可能性があるため、当日ご自分のPCをご持参ください。
- (4) 口演終了後、舞台袖の控室で事前に郵送いただいたメディア(USBフラッシュメモリやCD-R)をお受け取りください。

3. 口演者へのお願い

口演内容は、Progress in Medicine 7月号(ライフ・サイエンス)に掲載される予定ですので、以下の要領でまとめてください。

[執筆要領] 図表は別として、400字詰原稿用紙にて12枚以内にまとめてください。

また、200字以内の英文抄録を添付してください。

[原稿締切] 平成17年4月30日(予定)

※後日、ライフ・サイエンスよりあらためてご連絡いたします。

[問合せ先] (株)ライフ・サイエンス 日村昭仁

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山

TEL 03-3407-8963

セッション1 13:00～13:50

座長：津田悦子（国立循環器病センター）

1. 川崎病不全型との鑑別が困難であった全身型若年性関節リウマチの1例

箕面市立病院 小児科

隅 清彰 山本威久 藤川泰弘 岩城 大 溝口好美
北井征宏 大幡泰久 下辻常介

2. 両側眼球結膜充血がみられた心内膜炎の乳児例

国立循環器病センター 小児科

羽二生尚訓 北野正尚 黒崎健一 渡辺 健 津田悦子
塚野真也 越後茂之

3. 川崎病CAL残存例の遠隔期に片側視神経萎縮を生じた1例

和歌山県立医科大学 小児科

末永智浩 鈴木啓之 武内 崇 南 孝臣
上村 茂 吉川徳茂

社会保険紀南総合病院 小児科

渋田昌一

日本赤十字社和歌山医療センター 眼科

家木良彰

4. 高度僧帽弁閉鎖不全を合併し、僧帽弁置換術により救命し得た川崎病非典型乳児例

日本赤十字社和歌山医療センター 第二小児科（心臓小児科）

福原仁雄 豊原啓子 田里 寛 鈴木嗣敏 中村好秀

近畿大学 小児科

篠原 徹

近畿大学 心臓血管外科

小川達也 佐賀俊彦

5. 発熱4日、主要2症状の川崎病容疑例

長野県立須坂病院 小児科

池野一秀 下島圭子

セッション2 13:50～14:40

座長：中川雅生（滋賀医科大学）

6. 当院の川崎病患者におけるアルブミンの投与の影響についての検討

和泉市立病院 小児科

坂東賢二 米澤澄子 村上城子 中嶋靖潤
麻生和良

7. γ -グロブリン不応例の早期評価～CRPとアルブミンの動きからみて～

昭和大学横浜市北部病院 小児科

野中善治 曾我恭司 梅田 陽

8. 流行性耳下腺炎と同時に発症したと思われる川崎病の1例
～その頸部CTとエコー所見について～

神戸市立中央市民病院 小児科
原田明佳 宇佐美郁哉 山川 勝 富田安彦 久保田 優

9. 川崎病後遺症による僧帽弁閉鎖不全に感染性心内膜炎を合併した1例

愛媛大学 小児科
檜垣高史 村上至孝 高田秀実 松田 修 中野威史
愛媛県立中央病院
村尾紀久子 山本英一

10. 実験的動脈炎・硬化症に対する免疫グロブリン後期投与の効果

京都大学大学院 循環器内科
岡部孝明 岸本千晴 北 徹
京都大学探索医療センター
村山敏典 横出正之

セッション3 14:40～15:30 座長：上村 茂（和歌山県立医科大学）

11. 20歳時の不明熱の既往から川崎病による冠動脈障害が疑われた48歳の症例

国立循環器病センター 小児科
松尾真意 津田悦子 吉村真一郎 濱道裕二 黒寄健一
越後茂之
日本川崎病研究センター
川崎富作

12. 川崎病後の右冠動脈狭窄に対するPTCA後に完全閉塞を来すも、無症状で経過した19歳男児例

金沢医科大学 小児科
高 永煥 新村順子 中村常之
金沢医科大学 循環器内科
北山道彦

13. ロータブレータ（PTCRA）を実施した川崎病後の高度石灰化を伴った右冠動脈セグメント狭窄の1例

大阪市立総合医療センター 小児循環器内科
村上洋介 兪 幸秀 江原英治 杉本久和
大阪市立総合医療センター 循環器内科
坂上祐司 伊藤 彰

14. MRAの2撮像法における川崎病冠動脈障害の画像診断

東京通信病院 小児科
稲葉利佳子 鈴木淳子
東京通信病院 放射線科
武村 濃 是永建雄
日本赤十字医療センター 小児科
藺部友良 土屋恵司

15. 川崎病冠動脈障害に対するMR Coronary vessel wall imagingの検討

東京通信病院 放射線科
武村 濃 大室正巳 是永建雄
東京通信病院 小児科
鈴木淳子 稲葉利佳子
日本赤十字医療センター 小児科
藺部友良 土屋恵司
フィリップスメディカルシステムズ株式会社
諏訪 亨 奥秋知幸 小原 真

最近の話題 15:30~16:00

座長：佐野哲也（大阪厚生年金病院）

【8th International Kawasaki Disease Symposium より】

研究分野

三重大学 小児科

三谷義英

臨床分野

大阪医科大学 小児科

片山博視

コーヒーブレイク 16:00~16:25

事務局報告 16:25~16:30

神谷哲郎先生追悼講演 16:30~17:10

座長：横山達郎（大阪予防医学協会）

【小児循環器病における神谷哲郎先生の足跡】

国立循環器病センター 小児科

越後茂之

【神谷哲郎先生と川崎病】

東京通信病院 小児科

鈴木淳子

特別講演 17:10~18:00

座長：濱岡建城（京都府立医科大学小児疾患研究施設）

【生物学的動態からみた川崎病の治療戦略】

千葉大学小児病態学 寺井 勝

セッション4 18:00~18:50

座長：荻野廣太郎（関西医科大学洛西ニュータウン病院）

16. 当院における過去3年間の川崎病に対する γ -グロブリン大量療法(2g/kg/day)に伴う低体温の頻度とその要因、追加投与となる要因についての考察

広島市立舟入病院 小児科

金丸 博 新田哲也 加藤 聰 上野哲史 野本勝弘
半田 聰 高本 聡 畝井和彦 岡野里香 兵藤純夫
藤井 肇

広島市立舟入病院 外科

津村裕昭

17. 当院にて γ -グロブリンを投与しなかった川崎病症例の検討

市立豊中病院 小児科

小谷智生 川上展弘 大友孝信 坂野公彦 森田祥子
佐藤恵実子 吉川真紀子 徳永康行 本田敦子 松岡太郎
原 達幸 清水一男

18. ステロイドパルス+ γ -グロブリン療法併用による初期治療に不応であった川崎病児例の検討

大阪川崎病共同治療研究グループ

藤原 誠 黒飛俊二 佐野哲也 岩城 大 小野寺 隆
川上展弘 窪田恵子 小垣滋豊 島 雅昭 清水一男
田中一樹 西垣敏紀 西垣敏紀 牧 一郎 松崎香士
三木和典 森田好樹 藪田玲子 山本威久 原 純一

19. Cyclosporineが著効した難治性川崎病の2歳男児例

大阪府立母子保健総合医療センター 小児循環器科

萱谷 太 那須野明香 角 由紀子 北 知子
稲村 昇

大阪府立母子保健総合医療センター 血液腫瘍科

澤田明久 河 敬世

なかじまクリニック小児科・循環器科

中島 徹

20. 巨大冠動脈瘤に対するワーファリンコントロール中に腹腔内出血を認めた1例

愛媛大学小児科

高田秀実 檜垣高史 村上至孝 松田 修
中野威史

愛媛県立中央病院

村尾紀久子 山本英一

Kenketsu **Venilon®-I**

Intravenous Immunoglobulin



血漿分画製剤 特定生物由来製品 指定医薬品
 献血 静注用免疫グロブリン製剤



献血ベニロン-I

(乾燥スルホ化人免疫グロブリン)
 生物学的製剤基準

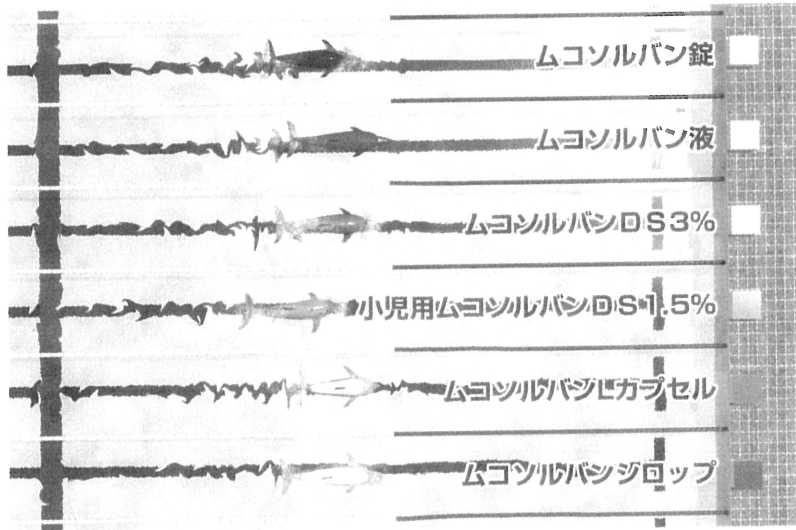
薬価基準収載

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等は製品添付文書をご参照ください。

販売元
TEIJIN 帝人ファーマ株式会社
 〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1
 資料請求先：帝人ファーマ(株) 学術情報部

製造元・販売
化血研 昭和化学工業株式会社
昭和化学工業株式会社 東京都中央区本町1-1-1
 資料請求先：(財)化学及血液療法研究所 営業管理部

VEN902 (MI) 0309改3 作成年月2003年9月



指定医薬品 気道潤滑去痰剤

ムコソルバン 錠・液・DS3%・シロップ
 小児用ムコソルバンDS1.5%

指定医薬品 徐放性気道潤滑去痰剤

ムコソルバン Lカプセル
 Mucosolvan® (塩酸アンブロキシール) 薬価基準収載

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等は添付文書をご参照ください。

製造・販売元
TEIJIN 帝人ファーマ株式会社
 〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1
 資料請求先：帝人ファーマ株式会社 学術情報部



提携
 ベリンガーインゲルハイムインターナショナル社
インゲルハイム・アレクサンダー・ストリート



製造元
中北薬品株式会社
名古屋市中区丸の内三丁目11番9号

MUC806(MI)0412
 2004年12月作成